



海津市まちづくり委員会

第7回

安全・安心まちづくり検討分科会資料

2011年10月7日

岐阜経済大学 菊本舞

本日の分科会について

- 前回分科会のまとめ
- 連携のあり方についての先進事例の紹介
- ワークショップ「各団体間の連携をすすめるために」

前回まとめ（課題解決の具体的な方法案を考える）

	子どもを守る	市民参加・地域コミュニティづくり	防犯団体間の連携	犯罪抑止の環境づくり	高齢者
方法内容	・小学校ごとにスクールボランティア ・登下校時の見守り ・嚮・バッチ・ユニフォームを活用しながら顔見知りになる活動	・すべての世代で食事会（手作り料理で） ・三世代ふれあいイベント ・近隣の見守り助け合いネットワーク事業(小さい単位の自治) ・自治会・子ども会の連携 ・市窓口の相談機能の強化	・消防団の夜警 ・ネットワークづくりによる情報共有	・環境美化 ・定期的なパトロール ・挨拶運動	・一人暮らし高齢者への声掛けや悩み事相談 ・自治会ごとの高齢者世帯の把握
連携	自治会、子ども会、老人会、学区別団体、PTA、行政、教育委員会、学校、青少年育成委員会、社会福祉協議会(地区社協)、地域安全指導員、交通安全指導員などの連携が必要。団体間の連携自体が課題。横の連携の仕方がわからないためやりたくてもできない。行政や団体にもお金がない。				
範囲	市レベルだけではなく、地区社協や小学校区等をベースとして、狭域な範囲での取り組みが必要ではないか。				

連携を進めている先進事例①地区内の連携

- 地区公民館の自主運営を生かした団体間の連携
島根県松江市「法吉地区あんぜん・あんしんネットワーク」
 - 主な連携団体
地区地域安全推進員会、地区社会福祉協議会、
地区民生児童委員協議会、地区老人クラブ連合会、
地区交通安全協会、地区青少年育成協議会、
地区交通安全対策協議会、地区パトロールママの会、
法吉小学校保教の会、PTA、第一中学校PTA 法吉地区、
地区消防団分団、地区更生保護女性会、小中学校長、警察署
 - 二輪車を活用した地域巡回(青パトも同時に実施)
 - 要援護者「おねがい会員」の支援者「まかせて会員」による
日常的な見守り活動
 - 防災訓練の実施を通じて地区内が世代を超えて顔見知り
になるよう取り組んでいる

連携を進めている先進事例②情報共有

- 関係者が一堂に会する協議会の設置と定期的な開催
 - 住民代表、社協、学校関係、防犯協会、警察、消防、行政等々
 - 例：大垣市安全安心まちづくりステーション連絡協議会
(東地区と北地区が合同で開催)
 - 住民代表：連合自治会長
 - 防犯自主ボランティア組織：見守り隊等(自治会とは別に組織)、大学学生グループ
 - 学校関係者：小中学校長、小中学校PTA会長、大学
 - 犯罪の起きやすい施設等：ショッピングモールマネージャー、JR駅長
 - 警察関係：駅前交番、地区交番、市警察署、大安地区防犯協会
 - 警察関係ボランティア：少年補導員、保護司
 - 行政関係：市生活安全課
 - 活動の目的・内容：情報共有、イベント時等の協働でのパトロール、合同の啓発活動等

各団体間の連携をすすめるために

○ 連携の方法

- 例1:市内における情報の共有
(各種団体の紹介ニュースなどの配布)
- 例2:地区内の連携の推進
- 例3:市または地区等のレベルに協議会等を設置

○ 拠点づくり

- 例1:地区や校区を基本とした拠点づくり
- 例2:「地域安全安心ステーション」の設置活用